

# 2019年度 事業報告

赤字は期初の狙い。青字は来年度に向けてのコメント

JSAF 普及指導

委員会 委員長：川北達也 副：坂口英章

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
<b>実行計画1. セーリングスポーツの普及、発展と安全確保 (4)選手と共に成長し続ける指導者の育成</b>			
<b>1) JSAF新指導者育成体系構築&lt;継続&gt;</b>			
・JSAF指導者指針および指導者規程の策定 <新規>	3月	-	H30年度に策定し、承認された「JSAF指導者育成体系」に基づき、指導者が活用推進するために、指導者の行動指針や資格規定を策定する。 教材作成に膨大な工数が取られ、指針の策定開始が遅れた。そのため、指針検討開始に止まり、規定についても策定できていない。来年度の6月の理事会を目途に上程する予定。
・専門科目講習会の改定<新規>	5月～12月	福岡、神戸、東京	2019年度より改定されるJSPOスポーツ指導者養成制度に合わせて、「JSAF指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠したコーチⅡの実施プログラムの策定と、コーチⅢの具体的教材開発 プログラム検討会を4回実施して、コーチⅢの具体的脅威教材を完成した。新規に海上実習のプログラムを作成したことから、コーチⅡのプログラム策定の工数が確保できなかった。次年度以降は、およびコーチⅡ/Ⅳの実施プログラムと教材を開発する必要がある。
<b>2) 次世代公認指導者の養成&lt;継続&gt;</b>			
・公認指導者養成講習会の開催 (JSPO委託事業)	前期：10月25～27日 11月08～10日 後期：1月31～2月2日 2月14～16日	前期：東京/福岡 後期：和歌山	ジュニア・ユースの指導者を中心にコーチⅢ養成専門科目講習会の開催。 2019年度は、国体監督の資格向上に向け、2回の実施。 今年度はJSPO共通科目、JSAF専門科目ともに改定になり、新しいスタートを切った。特に、専門科目の後期講習では、20時間中12時間の海上講習を設定し、荒天（強風）を想定した安全の実践を受講者全員が体験できるように、コーチⅣ資格保持者にコーチデベロッパー役を担当頂くことで、前後期合わせて73名の受講者の育成を実現した。共通科目との整合も十分とれており、受講生の評価も非常に高いものとなった。としてコーチ講習会のみの実施であるが、新規に25名の応募があり、過年度受講者を加えて前期21名、後期20名の参加で講習会を実施。開催場所については、前期は東西1回ずつ。後期は、NTCを活用して、和歌山での実施とした。来年度は33名の受講申し込みがあり、前後期とも和歌山で実施予定。
・公認指導者養成講習会 共通科目Ⅲ への講師派遣(JSPO主催事業)	7月26-29日 8月3-4日/17-18日 8月22-25日 9月20-23日 10月17-20日 10月18-21日	東京 大阪 東京 東京 東京 大阪	JSPOが共通科目講師養成を目的にJSAFから2名がコーチデベロッパーを認定された。ファシリテーションスキル向上と、専門科目との整合性向上を目的に、講師として10コース中、6コースに参加。来年度は、新たに1名を加え、3名にて共通科目の過半数に講師として参加予定
<b>3) 公認指導者の継続的レベルアップ</b>			
・指導者講師研修会の開催 (JSPO助成事業)<新規>	12月14～15日	若洲ヨット訓練所	策定したコーチⅢ講習カリキュラムで海上講習パートを指導するコーチデベロッパーを養成するため、上級コーチ資格保持者を対象にした講習会の実施 今年度は、コーチデベロッパーが、実際の講習で何をゴールに実施するのか、進め方はどうすべきか？各パートで共通して行う事は何か？など各自の講習内容を共有したり、標準化したりすることもできた。来年度も、初めて実施した内容のブラッシュアップと共に、現場で活動するコーチに、コーチデベロッパーとしての活動をする場の提供と、現場指導の実態を踏まえた講習にするための検討会として開催したい。

・更新研修の受講促進<継続>	前期:10月25~27日 11月08~10日 後期:1月31~2月2日 2月14~16日	前期:東京/福岡 後期:和歌山	指導者資格更新に必要な更新研修実施と加盟団体主催講習会の更新研修認定。 研修情報の周知受講者情報の確実な登録を実現する関連委員会との仕組み運用。 公認コーチ講習会開催時に、近隣県から義務研修として受講者を募集し、1日のみの参加により、講習会内容の理解を図った。また、JSPOが年度内に開催した「グッドコーチング」講習を、対象者に案内した。加盟団体からの義務研修認定要請はなかった。関連委員会との協業が進み、義務研修登録に関するトラブルが激減し、仕組みの定着ができてきている。
・指導者リストの整備<継続>	4月、9月	-	更新まで1.5年以内の指導者資格保有者に対して、更新研修受講情報の提供 半年に1回のサイクルで、セーリングの公認指導者資格保有者をJSPOのDBから抽出し、義務研修未受講者や更新対象者にワーニングメールを送付。 次年度には、更新手続きの方法や更新研修の探索ができるように、委員会ページにて展開を予定。
<b>4) セイラー育成システムの展開</b>			
・セイラー育成システムの標準化<新規>	4月~8月	-	H30に策定したセーリングガイドへの追加のための画像、映像の制作と提供追加の仕組みづくり 海外の複数の書籍を参考に、初心者セイラーが、セーリングスキルを最短期間で取得するために、何をどのような手順で育成したらよいかを記載したJSAF標準ガイドランスを作成したが、まだ、初心者レベルの身になっている。そのため、中級レベルの制作を完了してから、展開することに方針を変更。今後は、委員会内で担当を変更し、中級の作成と本ガイド「セーリングテキスト」を冊子化したり、写真や映像を追加することを検討する。
・セイラー育成教材の提供<継続>	4月~8月	-	海外書籍の翻訳提供と翻訳用語の標準化 「RYA Start Sailing」、「RYA Coaching Manual」などの海外の書籍の翻訳を中心に、指導者に展開。
<b>(6)セーフティーセーリングの推進</b>			
<b>5) JSAF安全基準の策定、展開&lt;新規&gt;</b>			
・セーリングセンター/セーリングクラブの施設/設備に関する安全基準の策定	-	-	ライフジャケット着用、指導者の海上での救急救命など、危機管理WG提言を含めたJSAF安全基準を関係委員会と協業して策定 リソース不足で未実施
・セーリングスクール/ヨット部の指導者の資格保有基準の策定	-	-	全国のセーリングスクール/ヨット部の指導者の資格保有の調査と安全対策などを調査し、JSAFとしての指導者の資格保有基準を策定 リソース不足で未実施
・バッジテスト検定員の資格基準の策定	3月	-	安全をテーマにしたバッジテストの内容見直しに合わせて、検定員資格を規定化 セイラー育成システムとの連動を前提として、指導者資格の保有を前提とする方針で検討中。来年度に規定化し、各都道府県の意見を収集した上で、理事会に上程する予定。
・事故報告書の収集管理と情報展開	通期	-	事故内容を蓄積して課題と対応を標準化した内容を各団体にフィードバックする仕組みを関係委員会と調整して策定。 収集した情報は3件のみ。この内容を、コンプライアンス研修時に展開共有した。
<b>6) 安全確保のキャンペーンおよび情報展開&lt;新規&gt;</b>			
・ライフジャケット/キルコードの使用徹底	前期:10月25~27日 11月08~10日 後期:1月31~2月2日 2月14~16日	前期:東京/福岡 後期:和歌山	指導者等が乗るラバーボートのキルコードの正しい使用方法載せたガイドブックと映像を公式サイトで展開 桜マークのライフジャケットに関する情報や、キルコードの使い方について、指導者に向けて、講習会等の場で周知徹底は図った。今年度から実施している海上講習でも、実施を徹底している。次年度には、委員会ページにて展開を予定。
・練習環境の安全徹底	前期:10月25~27日 11月08~10日 後期:1月31~2月2日 2月14~16日	前期:東京/福岡 後期:和歌山	各地の練習海面の安全基準チェックリスト策定に向けたガイダンスを作成展開 各々の練習海面での安全基準チェックリストの作成を指導者に向けて、講習会等の場で周知徹底は図っている。次年度には、委員会ページにて展開を予定。

<b>7) バッジテストシステムの再構築&lt;新規&gt;</b>			
・バッジテスト資格者管理	6月～3月	-	47都道府県のうち、42団体で54回の検定を実施し、約550名の合格者を認定。約125万円の入金があった。更に、会員管理システムへの情報一元化を前提とし、システムの表示項目の改定依頼と、バッジテストの報告書報告書提出管理を強化し、また、フォームの改定を行う事で、工数をかけずに入力出来る体制を構築した。 <b>2020年度から、順次入力を実施するための過去データの整理を実施予定</b>
・バッジテスト検定制度改定案の策定	2019年6月	-	<b>ジュニア・ユース世代が楽しんでチャレンジできる初級取得の検討</b> 検討会を実施し、関係団体からの賛同は得られたものの、セーラー育成システムの構築のもとに、項目を整理する必要がある、その完成後に策定を再開することとした。
・バッジテスト上級の改定による強風域に対する大会参加資格基準の検討	2019年6月	-	検討会を実施したが、各地の環境の異なりや、参加要件に組み込むことについて、関係する主催団体の賛同を得られなかったため、検討を中断した。
<b>(9)セーリングファンの開拓</b>			
<b>8) セーリング未体験者の誘導&lt;継続&gt;</b>			
・ポートショーJSAFブースの企画と実施			<b>関係委員会と協業にてセーリングブースの展示企画と当日実施</b>
・小中学校へのセーリングへの訪問授業の標準化			室内で業務用扇風機などで帆走体験システムを検討したが、体制と環境に与件があり、実施に至らず。 <b>来年度には、室外で安全を担保したセーリング帆走体験システムにチャレンジしたい。</b>
・陸上セーリングイベントの企画と機材準備	2019年7月6-7日 2020年3月6-9日(中止)	豊洲 パシフィコ横浜	マリン事業協会の要請に基づき、2艇のランドOPを用意して、手押しによるキッズの乗艇体験を実施。2日間で約1000名の子供が乗艇した。このイベントで、翌週の海イベントを案内。20組くらいの家族が若洲に来場。エコシステムの可能性は体験できた。これに基づき、3月から秋までのきっかけを作る予定で、ポートショーの準備を進めていたが、中止となり、キッカケの配乗者を失っただけでなく、オリンピックやWorld Cupまで延期になったことで、エコシステム実現は不可能となった。 <b>来年度は、準備期間として、ポートショーで予定していたイベントの標準化とイベントをつなぐシステムの検討やメッセージの訴求の仕方を整理しなおす。</b>
<b>9) 加盟団体、特別加盟団体の普及活動支援&lt;継続&gt;</b>			
・「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)	2019年6月-8月	千葉、東京、大阪、和歌山、兵庫、鳥取、山口、香川	今年度は、全国8団体でイベントを開催。延べ1万人を超える参加者により、海の魅力を訴求でき、各地で盛り上がりを見せた。今年度は、安全をテーマに内容を更新してチャレンジした。まだまだ、イベントが年1回の単発で終わっていることに、変化をもたらすような仕掛けはできていない。
・ポートショーで確立した小中学校へのアプローチを標準化し、全国に展開する。	12月～2月	-	ポートショーのアプローチを、その後のイベントに繋げていく事を仕掛けようとしたが、残念ながらポートショー以降のイベントがごとく中止になり、「エコシステム」構築を実現できなくなった。
・関係委員会と協業で、子供達への陸上セーリングイベント企画の策定と使用材料提供		-	ポートショーや、他のイベントの企画を全国展開できるように、ノウハウを築盛できてはいるが、イベント中止により、展開ができるに至っていない。 <b>来年度は、ツール活用ガイドを作成展開したい。</b>
<b>実行計画3.メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成</b>			
<b>(5)セーリングスポーツを支える委員会活動の活発化</b>			
<b>10) 加盟団体、特別加盟団体参加の指導者への情報展開強化&lt;継続&gt;</b>			
・委員会ページの改定と指導者コミュニティの構築	4月～3月	-	改定ほぼ完成するも、オープンが2020年度4月にずれ込みの見込。 <b>来年度は、他委員会と合わせて、ステークホルダのニーズ別に改定展開する必要がある</b>
<b>11) JSAF実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流</b>			

・他委員会との協業拡大	4月～3月	-	環境保全:レディース、海その愛、環境、ジュニアカとの協業 普及事業:広報、レディース、海その愛、環境、オリ準、オリ強、ジュニアカとの協業 Vision検討:全委員会との協業など参加委員会や実施事業が拡大できている また、委員長会議の活性化により、他委員会同士の協業にも支援できた
<b>12)中長期計画策定支援</b>			他委員会や団体と協業にて、JSAF Vision、および中長期計画の作成に向けた活動の支援を行う
・JSAF Vision策定支援	～2/23	-	検討会メンバーとして、委員の3名が参画し、Vision策定まで貢献した。 来年度は、具体的な中長期目標と施策を他の委員会と調整しながら設定したい
<b>(7)セーリングスポーツに関わる国際人の養成</b>			
<b>13) JSAF国際人材育成制度(仮称)の策定&lt;新規&gt;</b>			
・国際人材を養成する育成体系の策定	未実施	未実施	国際委員会に相談し、事業移管を検討
<b>14)JSAF国際人材育成制度に基づく、人材発掘と育成</b>			国際連盟および他国からの指導者育成ノウハウの収集
・国際人材育成制度への企画申請と、人材派遣支援(スポーツ庁委託事業)<継続>	申込者なしのため、実施せず	-	
・JOC国際人養成アカデミーへの人材派遣<継続>	7月～12月	味の素NTC 1名派遣/修了	昨年度末に募集し、1名の応募があり、書類審査、面接の上、JSAFから推薦書を提出。参加費の半額をJSAFで負担することで、修了後のJSAF貢献も約束ができています。JOCの審査も通過し、8週間の金土日の国際人養成合宿に参加し、無事修了した。これにより、JOCや他競技団体から見たJSAFのプレゼンスも少しずつではあるが向上しつつある。来年度も、継続して募集をかけ、人材育成を進めていきたい。
・スポーツ指導者海外研修事業への推薦と派遣支援(JOC事業)<新規>	申込者なしのため、実施せず	-	語学力や他の要件を満たしたうえで、一気にチャレンジするメンバーがなかなか発掘できない。来年度以降、国際委員会と協業を高め、計画的な人材育成を検討したい。
・JOC コーチングアカデミーへの人材派遣<新規>	申込者なしのため、実施せず	-	当年度にNT強化コーチしか、関心を示していない。 2022年度以降、JOCが認定する強化コーチの資格要件として、必須となってくるので、オリ強委員会と協業を高め、候補者の要件定義や発掘を進めていきたい。
<b>15) World Sailing/ASAFでのJSAF地位向上&lt;継続&gt;</b>			
・World Sailingデベロップメント会議参加	予算削減のため中止	予算削減のため中止	国際標準の指導育成情報、及びノウハウの収集を目的に事業設定したが、渡航、及び滞在費用の削減に対応した。 今年度ICCE(国際コーチングエクセレンス評議会)主催のカンファレンスが、東京で開催され、これに参加し、コーチ育成のノウハウを収集できた。2020年以降当面は、国内での情報集を中心に活動する。
・国際委員会が展開するSFT事業への支援	12月	パラオ共和国への コーチ2名派遣	今年度は、パラオ共和国へのコーチ派遣がJSAF国際委員会のSFT事業(外務省助成事業)となったため、派遣するコーチを選定し、現地での指導交流を実現した。 SFTは、TOKYO2020までの国の施策であり、来年度以降については、実施されるかどうかは不明。
<備考:反省点等>			